

Hammond Portfolio

Playing Guide



AURORA
222K

(使用説明書)

The Hammond Portfolio Playing Guide

AURORA
222K

BE PROUD!

YOU OWN A HAMMOND THE WORLDS MOST POPULAR ORGAN

数ある電子オルガンの中からハモンドオルガンをお選びいただきまして、ありがとうございました。

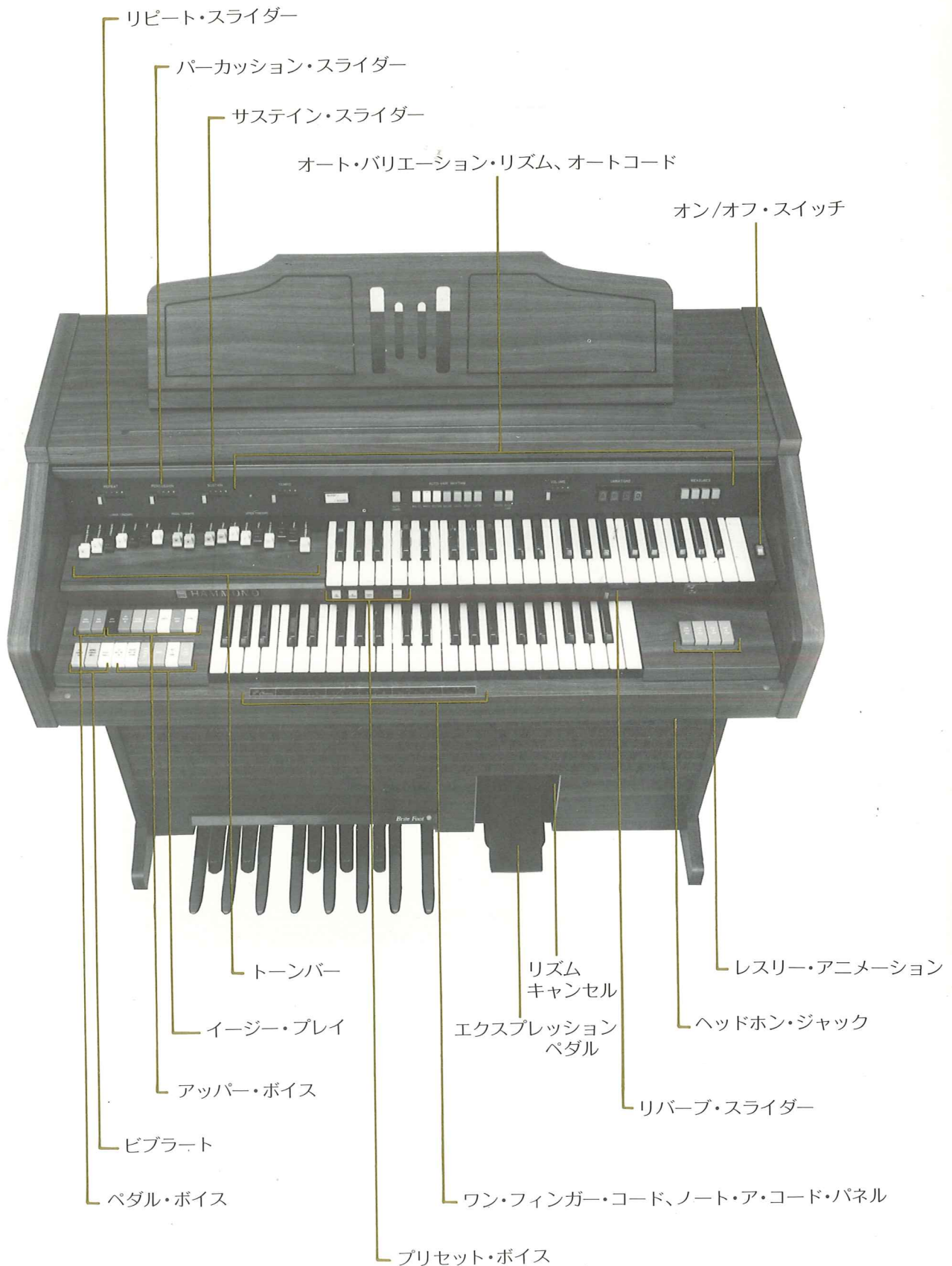
ハモンドオルガン独特の厚みのある美しい音色は、初心者の方から専門家の方々まで“これなら！”と、きっと満足していただけると確信しております。

CONTENTS 目次

コントロールパネル面……………	2	ブライトフット……………	16
トーンバーの操作……………	3	ベーススイング……………	17
さあ、聞いてみましょう……………	5	ベースウォーク……………	18
レジストレーション・パターン……………	6	高度な演奏のための秘訣……………	19
ペダルトーンバーとタブレット……………	8	ノート・ア・コードとメモリー……………	20
サステインとパーカッション……………	9	レジストレーション……………	22
アニメーション……………	10	特殊効果とコンビネーション……………	24
プリセット・ボイス……………	11	ハモンドオルガンについて……………	26
オート・バリエーション・リズム……………	12	その他の特長……………	28
ワンフィンガー・コード……………	13	オルガンの保存、手入れなど……………	29
フル・コードによるオートコード……………	15	故障かな？そう思われたとき……………	30

MEET YOUR HAMMOND AURORA 222K

(コントロールパネル面)



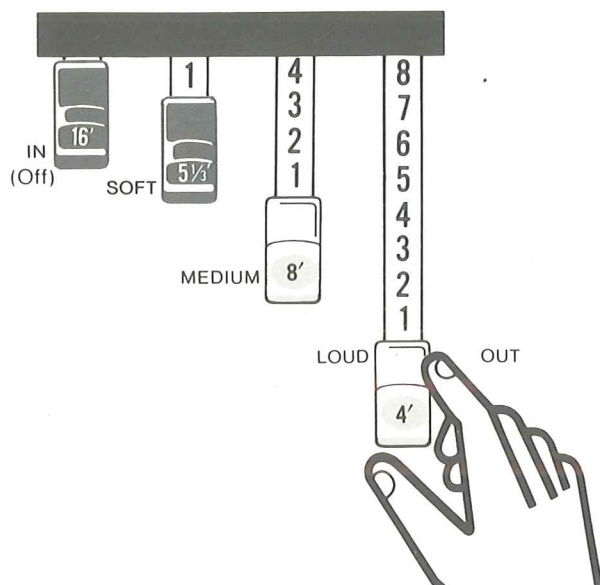
TONEBARS (トーンバー)

ハモンドオルガンには、独特のハーモニックトーンバーがあります。この特長が他社のオルガンとまったくちがう点です。このトーンバーは、音楽業界に独自のシンセサイザーとして知られている

もので、無数の音の変化をつくり出せるものです。トーンバーは実に使い方が簡単です。さあ、トーンバーについて勉強しましょう。

TONAL REGISTRATION (レジストレーション)

それぞれのトーンバーは、8段階のボリュームと単一の音色を持っています。この音色は、トーンバーを合わせるだけで、お望みのボリュームレベルにセットできます。トーンバーを8まで引き出すと最も大きな音ができます。また反対に中へ押し込むと音量は減り、やわらかい音になります。

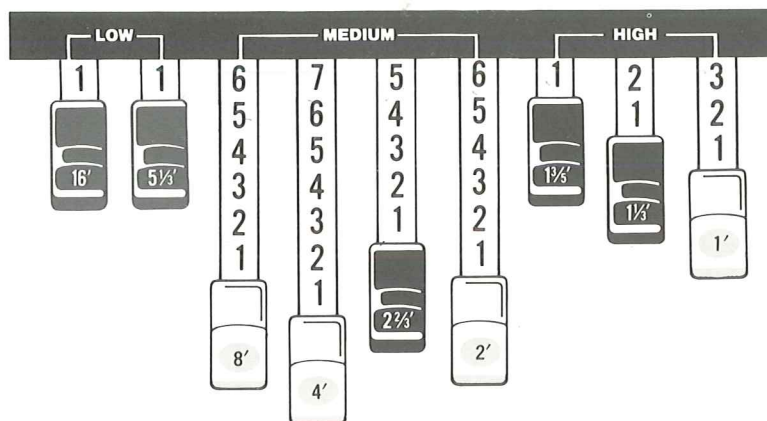


FOOTAGES-PITCHES (フットエイジ・ピッチ)

トーンバーの端のつまみに番号が書いてあります。これは“FOOTAGES”(フットエイジ)と呼ばれ、パイプオルガン特有の用語で、オルガンピッチをつくるために必要なパイプの実際の長さを示しています。音の高低を示すピッチは、

- 数字が大きくなればなるほど、ピッチは低くなります。
- 数字が小さくなればなるほど、ピッチは高くなります。

トーンバーは、3つのグループのピッチからできています。——低い、中位、高い——図に示した通りです。トーンバーレジストレーションは、ふつうこれら3つのピッチの範疇に、分けられます。



OCTAVE HARMONIC TONEBARS (オクターブ・ハーモニック・トーンバー)

“オクターブ・ハーモニック”の用語の意味は、次のように定義づけられます。

■オクターブ——鍵盤の上で、同じ音名で呼ばれている、2つ又はそれ以上の音が、オクターブを構成します。

■ハーモニック(倍音)——基音の合成によって得られる音です。

すべてのトーンバーをオフの状態にし、8'のトーンバーを引き出し、中央のCを弾いて下さい。この鍵盤を弾き続けた状態で、

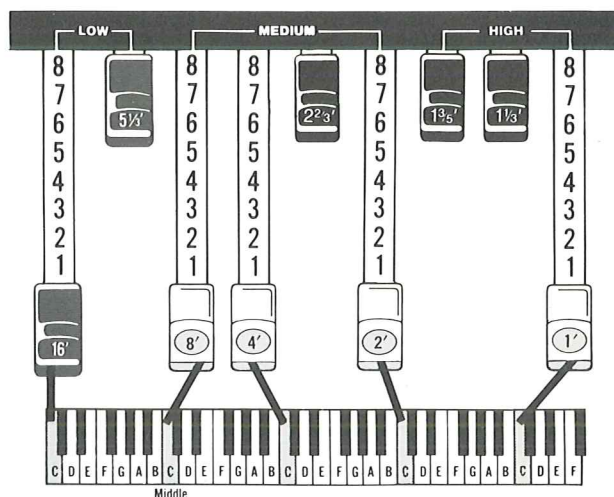
■16'のトーンバーを引っぱって下さい。中央のCより1オクターブ低いCの音が聞こえます。

■4'のトーンバーを引っぱって下さい。中央のCより1オクターブ高いCの音が聞こえます。

■2'のトーンバーを引っぱって下さい。中央のCより2オクターブ高いCの音が聞こえます。

■1'のトーンバーを引っぱって下さい。中央のCより3オクターブ高いCの音が聞こえます。

Hammondオルガンのオクターブ・ハーモニックトーンバーは、1つの鍵盤を押さえているだけで、1オクターブから5オクターブまで弾くことができます。いくつかの鍵盤を同時に弾くと、1オクターブから5オクターブまでの音が、それぞれかさなって出てきます。



NON-OCTAVE HARMONIC TONEBARS (ノン・オクターブ・ハーモニック・トーンバー)

ノン・オクターブ・ハーモニックは、オクターブの間の音を出します。すべてのトーンバーをオフの状態にし、8'のトーンバーを引っぱって、中央のCを弾いて下さい。この鍵盤を押さえ続けた状態で、

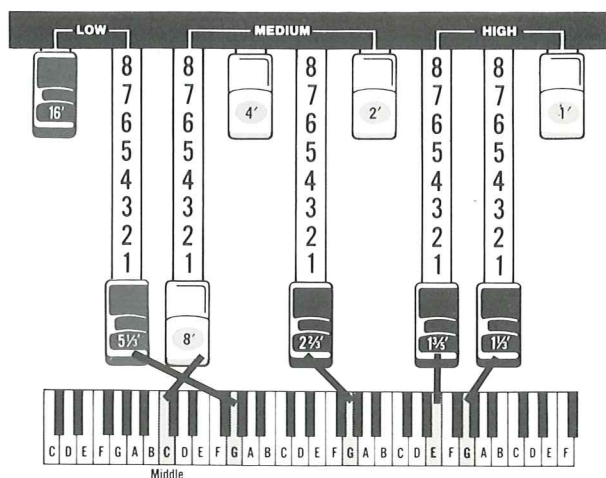
■5 $\frac{1}{3}$ 'のトーンバーを引っぱって下さい。中央のCより5度高いGの音が聞こえます。

■2 $\frac{2}{3}$ 'のトーンバーを引っぱって下さい。中央のCより1オクターブと5度高いGの音が聞こえます。

■1 $\frac{3}{5}$ 'のトーンバーを引っぱって下さい。中央のCより2オクターブと3度高いEの音が聞こえます。

■1 $\frac{1}{3}$ 'のトーンバーを引っぱって下さい。中央のCより2オクターブと5度高いGの音が聞こえます。

ノン・オクターブ・ハーモニックは、オクターブ・ハーモニックといっしょに使って下さい。豊富なオーケストラの音色や、無数の音の変化を作り出します。



TONEBAR“LET’S LISTEN”EXAMPLE

(トーンバーの組み合わせ例を、聞いてみましょう)

ハモンド特有のトーンバーは、どのような楽器の音色でも、またアンサンブル・レジストレーションでも作り出せるように工夫してあります。

トーンバーから出る低い音、中位又は高い音の違いがわかりますね。下に示した楽譜の各段を弾いてみてください。

トーンバー・レジストレーションは、3つのグループからなることを思い出して下さい。

最も気に入ったレジストレーションを見つけるために、いろいろなトーンバーの組み合わせを試してみてください。

■すべてのトーンバーをオフ(切)して下さい。

■さて、一段目の最初に書いてあるレジストレーションによって、上鍵盤のトーンバーを引っぱって下さい。

■まず、一段目を弾いて下さい。そして次の段を弾く前に、二段目の始めに示してあるレジストレーションに変えて下さい。

三段目、四段目も同じように続けて下さい。

ANDANTE CANTABILE

(交響曲第5番より)

UPPER:88 0000 000 P.I.TCHAIKOWSKY

UPPER:00 8888 000

UPPER:00 0000 888

UPPER:88 8888 888

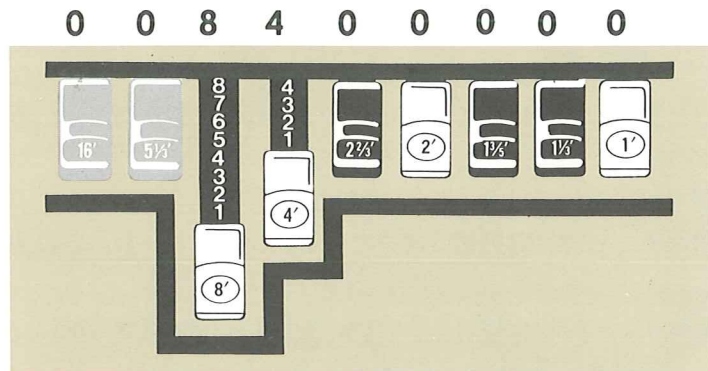
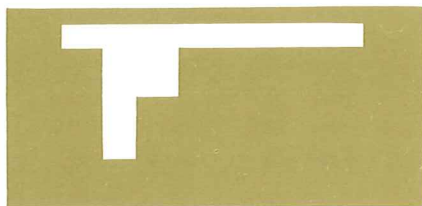
REGISTRATION PATTERNS

(レジストレーション・パターン)

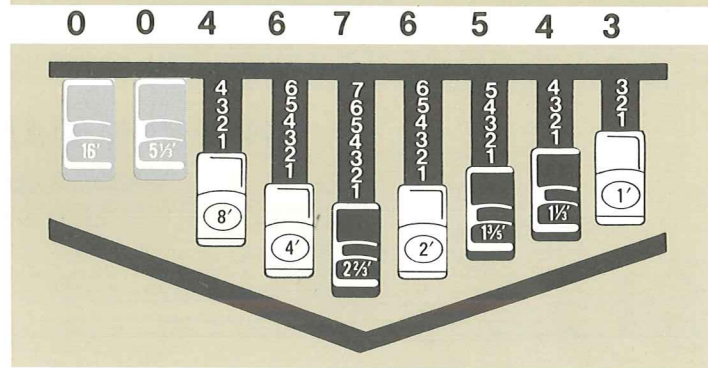
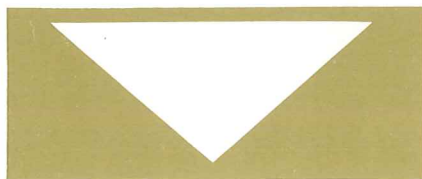
UPPER TONEBAR (アッパー・トーンバー)

早く、簡単にレジストレーションを覚えるために数字を使うよりは、むしろトーンバーのパターンを理解して下さい。パターンは、ソロやアンサンブル用のレジストレーションをすばやく作るのに都合よく考えられています。いくつかの例を、あげます。

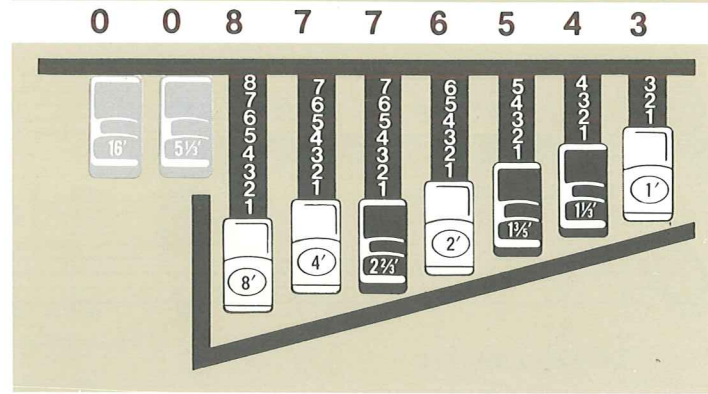
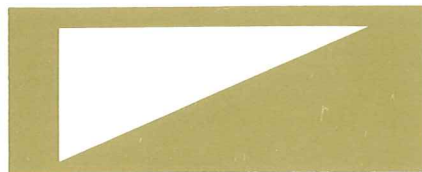
基本的なフルートのレジストレーションとパターン。



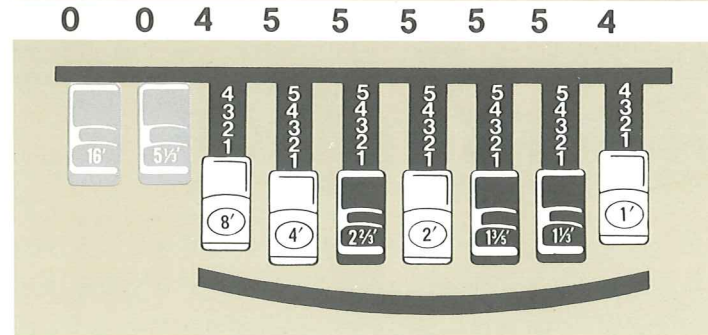
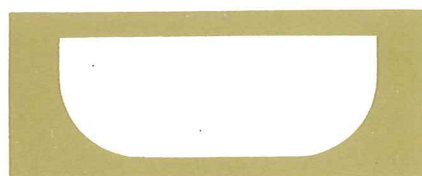
基本的なリードのレジストレーションとパターン。



基本的なオルガンのディアパーソンのレジストレーションとパターン。



基本的なストリングのレジストレーションとパターン。

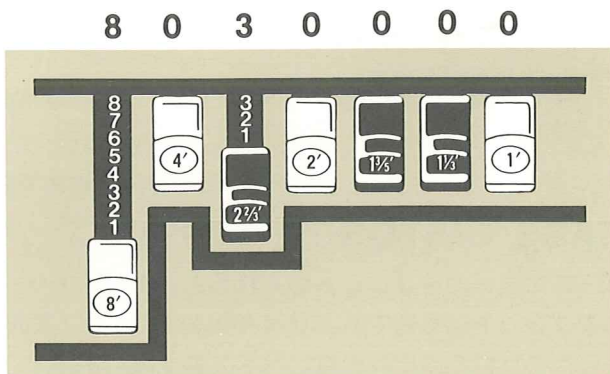
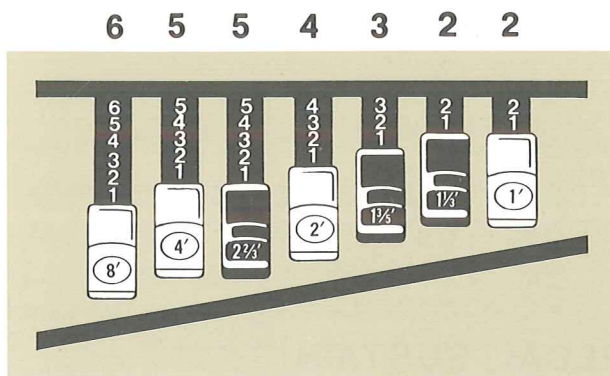
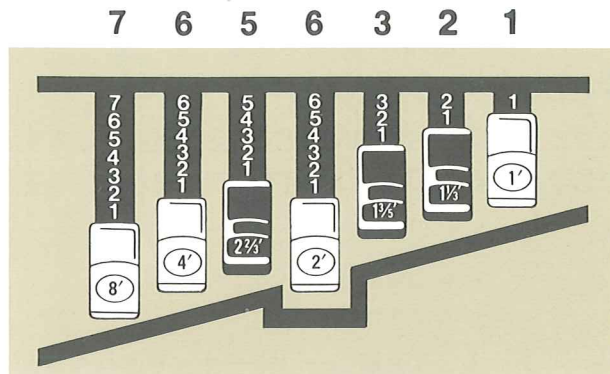
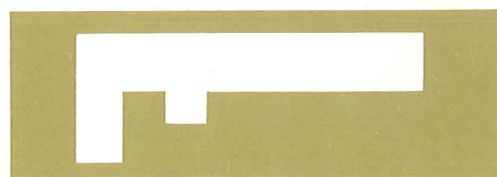
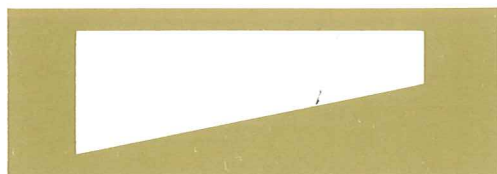
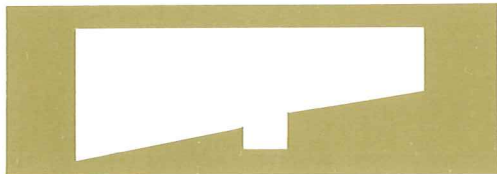


注意：トーンバーは、単独あるいは多彩なオルガンボイスと混ぜて演奏できます。けれどもトーンバーは、プリセット・ボイスとは、混ぜられません。

LOWER TONEBAR

(ロワー・トーンバー)

下鍵盤での伴奏用のレジス
トレーションを3つあげま
した。



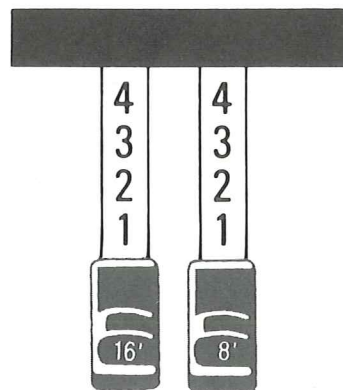
下鍵盤用のトーンバーは、上鍵盤と下鍵盤の適切なバランスがとれるように、自由に音色、音量が変えられるようになっています。

なお、ロワー・トーンバーはアッパー・トーンバーと比べて、左側のトーンバー2本(16', 5 1/2')が少なくなっています。

PEDAL TONEBARS & PEDAL SUSTAIN, BASS GUITAR (ペダルトーンバーとペダルサステイン、ベースギター)

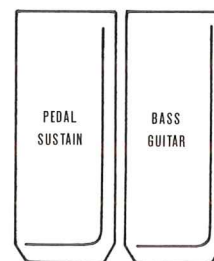
PEDAL TONEBARS (ペダルトーンバー)

ペダルトーンバーには16'と8'の2種類があります。このトーンバーは単独でも使えますが、同時に使用すると、豊かなバス音が得られます。



PEDAL SUSTAIN (ペダルサステイン)

ペダルサステインのタブレットを入れて、足をペダルから離すと音は徐々に消えていきます。8'ペダルトーンバーにペダルサステインを加えると、ウッドベースの音が出ます。

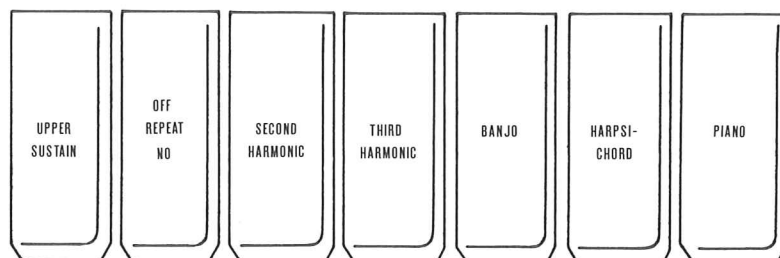


BASS GUITAR (ベースギター)

ベースギターのタブレットを入れると、エレキ・ベースの音になります。このタブレットは単独でも、又ペダルトーンバーと同時に使うこともでき、アタックのきいた歯切れの良いベース音が楽しめます。

UPPER MANUAL SUSTAIN & PERCUSSION

(上鍵盤サステインとパーカッション)



UPPER SUSTAIN (アッパー・サステイン)

アッパーサステインは、上鍵盤用トーンバーの音を徐々に減衰させます。トーンバーの組合せによって、鈴やハープ、ピブラホン、チャイムなどの効果を作ることができます。またプリセットのTIBIA16'とSTRING8'にもサステインがかかります。

REPEAT (リピート)

リピートは、パーカッションボイスに反復効果を与えます。バンジョーにリピートを加えると、バンジョー独特の効果が出せすし、セカンドハーモニックやハープシコードでは、シロホンやマンドリンの効果がつくれます。またサステインを同時にいれると、シンサエコーと呼ばれる特殊な効果が出せす。リピート効果の速さは、コントロールパネル左端のスライドで自由に選んで下さい。

SECOND HARMONIC (セカンド・ハーモニック)

THIRD HARMONIC (サード・ハーモニック)

この2つのパーカッションは、ハモンドオルガンの持つ独特なサウンド作りをする大切な機能です。トーンバーと組み合わせると、ジャズの演奏に効果的です。

セカンドハーモニックは、トーンバーの4'と同じ高さの音が減衰音の形で得られます。またサードハーモニックは、トーンバーの2 $\frac{2}{3}$ 'の音が減衰音でです。

BANJO (バンジョー)

バンジョーの音がワンタッチで出せす。リピートを加えた方が、よりバンジョーらしくなります。

HARPSICHORD (ハープシコード)

17世紀の楽器そのままの音が出ます。リピートを使用するとバリエーションが得られます。

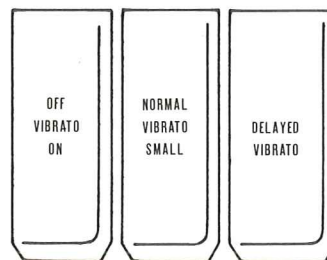
PIANO (ピアノ)

リアルなピアノのサウンドが出せす。リピートを使用するとバリエーションが得られます。パーカッションの音量は、スライドボリュームで調節することができます。トーンバーと組み合わせるときには、音のバランスを考えて下さい。

ANIMATION (アニメーション)

VIBRATO (ビブラート)

周波数変調のことで、規則的なピッチの振動が加わります。ビブラートをかけると、音楽の暖かみが増し、感情が十分に表現されます。ビブラートは大部分のレジストレーションに使用できますが、クラシックや教会音楽にはあまり用いません。



VIBRATO [OFF/ON] (ビブラート オフ/オン)

このタブレットをON (タブレットの手前を押す)にすると、ビブラートがかかります。

VIBRATO [NORMAL/SMALL] (ビブラート ノーマル/スモール)

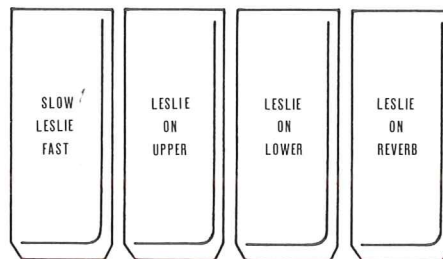
NORMAL (ノーマル)の位置にすると、ビブラート効果は大きく、SMALL (スモール)にすると、小さくなります。

DELAYED VIBRATO (ディレイド・ビブラート)

このタブレットを入れると、ビブラートはすぐにはかからず、やや遅れてかかります。

LESLIE (レスリー)

レスリー・スピーカー (回転スピーカー) により、上下鍵盤の音 (パーカッションボイスを除く) に立体的なトレモロ効果を作る装置です。



LESLIE [SLOW/FAST]

(レスリー スロー/ファースト)

FAST (ファースト)にすると、回転が早いトレモロ効果が得られ、SLOWにすると、ゆっくり動き、クラシック、教会音楽、ジャズに最適です。

LESLIE ON UPPER (レスリー・オン・アッパー)

上鍵盤のトーンバーレジストレーションにレスリーがかかります。

LESLIE ON LOWER (レスリー・オン・ロワー)

下鍵盤のトーンバーレジストレーションにレスリーがかかります。

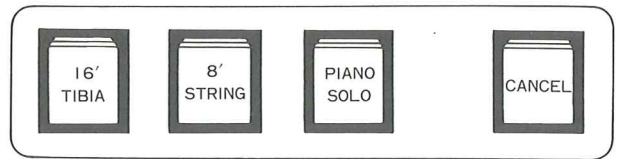
LESLIE ON REVERB (レスリー・オン・リバーブ)

リバーブ (リバーブの項参照) のかかった音がレスリースピーカーから出て、シアターオルガンのような効果を作り、歯切れの良い曲に最適です。

注意：222Kは、2チャンネルアンプシステムで、スピーカーが分離されていますので、パーカッションボイス、ペダル、リズムの音は常にメインスピーカーから出て、レスリーはかかりません。

PRESET VOICES (プリセット・ボイス)

プッシュボタンを押すとライトが点灯し、上鍵盤用トーンバーとパーカッションがキャンセルされ、ワンタッチでプリセットされたレジストレーションが得られます。



16' TIBIA (16フィート・ティビア)

ティビアコーラスプリセットは、ハモンドの代表的なサウンドで、シアターオルガンの音色 (トーンバーセッティング 60 8807 006) が得られます。

8' STRING (8フィート・ストリング)

階段波によって作り出された、張りのあるバイオリンの音色です。

PIANO SOLO (ピアノ・ソロ)

ピアノだけの音色が得られます。

CANCEL (キャンセル)

このボタンを押すと、プリセットはキャンセルされ、トーンバーとパーカッションによるレジストレーションにかわります。

16' TIBIAと8' STRINGは組み合わせることができ、フルオルガンの効果が得られます。

REVERB (リバーブ)

リバーブは残響効果のことで、あなたの部屋をコンサートホールにします。プリセットボタンの右側にスライドボリュームがあり、残響の深さを自由にコントロールできます。レスリー・オン・リバーブ (前頁) の調整もここでコントロールします。



AUTO VARI[®] RHYTHM

(オート・バリエーション・リズム)

オート・バリは、プロのようなリズム伴奏のおもしろさを作ります。リズムパターンは、まるで本物のドラマーがその演奏パターンを変えていくように自動的に変化します。7つのリズムボタンは、すくなくとも28種類の連続的に変化するパターンに広がります。多くの新しいパターンは、2つ以上のリズムを組み合わせることによって作り出せます。音楽をより高度にするために、オート・バリの可能性を見つけだして下さい。

HERE'S HOW THE CONTROLS OF YOUR AUTO VARI WORK:

(オート・バリのコントロール)

RHYTHM PATTERN BUTTONS

(リズムパターン・ボタン)

7つの基本的なリズムがあります。ワルツ、マーチ、ウェスタン、バラード、ジャズ、ロック、ラテン。1つのリズムボタンを押すと、前に選ばれていたボタンは自動的にキャンセルされます。(オフの位置にもどります。) 新たなリズム・パターンをつくるために、2つ以上のボタンを同時に押すこともできます。

AUTO VARI (VARIATIONS A,B,C,D,)

オート・バリ
(バリエーション
A・B・C・D)

これを使うことによって、オート・バリボタンが、7つの基本的なリズムと共にはたらき、連続的に変化していくリズムバリエーションをつくることができます。どのバリエーション (AまたはB、C、D) がはたらいているかは、ランプで見分けることができます。一度には、一つのバリエーションしか使うことはできません。気に入ったバリエーションで続けたい時には、そのバリエーションが現われている間、オートバリボタンをオフの状態にしておけばよいわけです。

TEMPO

(テンポ)

スライダーコントロールが、リズムのテンポをセットします。右に動かすとテンポがはやくなり、左に動かすと遅くなります。

VOLUME

(音量)

このスライダーは、オート・バリ・リズムの音量を調節します。右に動かすとリズムパターンは大きくなり、左に動かすとソフトになります。スライダーを最も左に置くとオフになります。(この時、オート・コードがオンになっていると、リズム伴奏なしにオート・コードをきくことができます。)

RHYTHM CANCEL

(リズム・キャンセル)

エクспレッション・ペダルの右側に、リズム・キャンセルスイッチがあります。このスイッチを右へ動かすことにより、オート・バリ28、オート・コードをオン、オフすることができます。このスイッチは、サイレント/サウンドのタブレットをオンにしている時のみ動作します。足でオン・オフの操作ができますので、その分だけ両手がフルに使えます。

AUTOCHORD®

(オートコード)

- ワンフィンガーコードをオートコードやリズムボタンと一緒に使うと、選ばれたリズムパターンでワンフィンガーコードの演奏ができます。
- 3音または4音のコードをリズムと一緒に弾くと、オートコードが自動的に選ばれたリズムパターンで、コードとペダル音を交互に演奏します。
- 下鍵盤では、単音でもオートコード演奏ができます。
- 新しくリズムが選ばれるとオートコードも変わります。

SILENT/SOUND

(サイレント / サウンド)

サイレント / サウンドのタブレットは、オート・バリ・リズムとオート・コードについてオン / オフのはたらきをします。サイレントはストップの状態であり、サウンド・オン(入)でスタートします。

TOUCH

(タッチ)

サイレント / サウンドのタブレットがサウンドになっていて、タッチと書かれたボタンを押している場合には、自動リズムは演奏を始めた時、つまり、下鍵盤かもしくはペダルのキーを押した時にスタートします。オート・バリのボタンも一緒に押していたら、リズムはバリエーションAの第一拍目からスタートします。このリズムは、サイレントのタブレットを押すまで続きます。

TEMPO(LAMP)

テンポ(ランプ)

タブレットがサイレントの位置にある時、選ばれたスピードで各々の拍ごとにランプがひかります。サウンドの位置にある時には、各々の小節の第一拍目にひかります。タッチのボタンを押している場合は、このテンポランプは下鍵盤かペダルを演奏するまで各々のビートごとにひかります。この時、テンポランプは各小節の第一拍目からひかりはじめます。

ONE FINGER CHORDS

(ワンフィンガー・コード)



ワンフィンガーコードのタブレットを押すと、下鍵盤の20の鍵を20のワンフィンガーコードにかえることができます。これによって、左手の一本の指を使うだけで、三和音とそれに最も適当なペダル音を演奏することができます。

下鍵盤のすぐ下にパネルがあり、ここに20のワンフィンガーコードの各々のコード記号が示してあります。

 Chords	C	D ^b	E ^b	E	F [#]	A ^b	B ^b	B ^b _m	C _m	F [#] _{dim}	G _m
	C	D	E	F	G	A	B	A _m	D _m	E _m	F _m

各々のコードは、コード記号のすぐ上にある鍵盤によってプログラムされます。たとえば、Cコードの上の鍵盤を押せば、Cコードの左手伴奏とペダル伴奏を得ることができます。

WHEN THE SAINTS GO MARCHING IN

(ウェン・ザ・セインツ・ゴー・マーチング・イン)

UPPER: 008808006

LOWER: 6644 000

PEDAL: 46

REVERB: —■—

N.C. 1 3 4 C 5 1 3 4 5 3 1 G 2 C 1

LET'S EXPERIMENT:

(さあ、弾いてみましょう)

- 曲目例に示してあるレジストレーション（アッパー、ロワー、ペダルトーンバー）をオルガンにセットして下さい。
- ワンフィンガーコードのタブレットを押して下さい。
- Cとかかれたキーを押してきいてみて下さい。(コードとペダル音がきこえるでしょう。)
- ジャズのリズムを使って、サイレント / サウンドのタブレットをサウンドにして下さい。Cのキーを押して下さい。(リズム伴奏と一緒にコードとペダル音がきこえるでしょう。)
- オート・コードボタンを使って下さい。Cのキーを押して下さい。(ジャズのリズムで自動的にコードとペダル音が交互にきこえるでしょう。)
- リズムテンポを、ちょうどよい速さに合わせて下さい。この伴奏を使って曲目例を弾いて下さい。次のコード記号がでてくるまで、各々のコード・キーを押し続けて下さい。
- おもしろくなってきたら、同じ曲目例でいろいろなオート・バリ・リズムを試してみてください。注意：ワルツは $\frac{3}{4}$ 拍子ですので、この曲目例には不適當です。この曲目例は $\frac{4}{4}$ 拍子です。

AUTOCHORD WITH THREE AND FOUR NOTE CHORDS

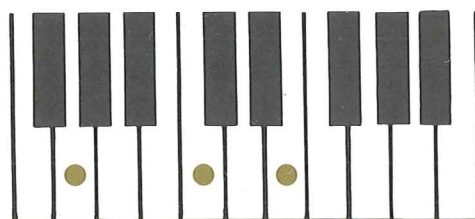
(フル・コードによるオート・コード)

13ページでも説明しましたが、オート・コードは、下鍵盤の3音や4音のコードの場合にもはたらきます。このおかげで、あなたの選んだどんなパターンのリズムでも、伴奏コードを演奏することができますし、またいかなるリズムパターンでもペダル音を自動的に得ることができます。

LET'S EXPERIMENT:

(さあ、弾いてみましょう)

- 曲目例に示してあるレジストレーション(アッパー、ロワー、ペダルトーンバー)をセットして下さい。
- サイレント / サウンドのタブレットをサウンドにして下さい。
- ワンフィンガーコードのタブレットが、オフ(切)になっていることをたしかめて下さい。
- 下の図を参考にして、Cコードを左手で押して下さい。



中央のC

- バラードのリズムを使って、オート・コードボタンを押して下さい。
- もう一度Cコードを弾いて下さい。(そう。あなたはこんなにすばらしい音楽をつくることができますのです。)
- テンポをちょうどよい速さに合わせて、曲を弾いてみて下さい。
- きっと、まるでプロの演奏者のような気分になれるでしょう。

YELLOW ROSE OF TEXAS

(イエロー・ローズ・オブ・テキサス)

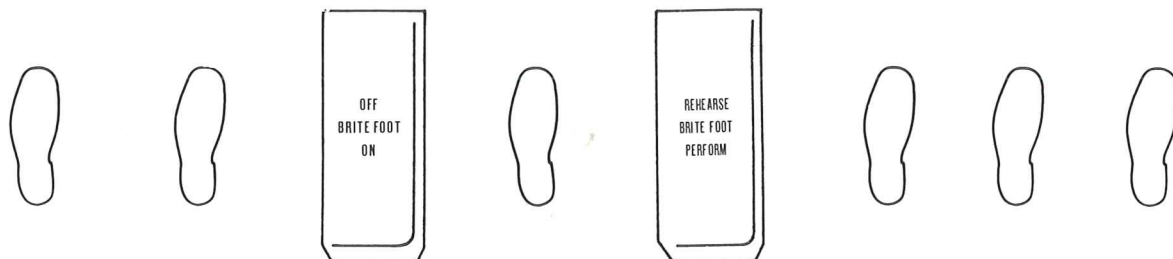
UPPER: 00 8008 000
LOWER: 6400 000
PEDAL: 24
REVERB: —■—



BRITE FOOT™

(ブライト・フット)

ハモンドは皆様に、もっとやさしく音楽を楽しんでいただくためにブライト・フットというものをつけました。ハモンドの優秀な技術者であるブレイニイ氏(Mr. Brainy)は、下鍵盤で演奏されるワンフィンガー・コードやフル・コードを調べ分析しました。ブライト・フットによって適切なペダルの上に赤い丸いランプがつきます。あなたはランプのついたペダルを踏むだけで良いのです。



THE REHEARSE MODE

(リハース・モード)

ワンフィンガーコードを使うか、下鍵盤であなたのお好きなコードを弾いて下さい。ブライト・フットのリハース・モードによって、そのコードに合ったペダルの上にランプがつき、しかも自動的に演奏されます。リハース・モードは、あなたに正しいペダル演奏をランプで教えてくれる先生なのです。

THE PERFORM MODE

(パフォーマンス・モード)

ワンフィンガーコードか、または下鍵盤で好みのコードを弾いて下さい。ブライト・フットのパフォーマンス・モードによって、そのコードに合ったペダルの上にランプがついて教えてくれますが、あなた自身が演奏できるようにペダル音は取り除かれています。

LET'S EXPERIMENT:

(さあ、弾いてみましょう)

- ブライト・フットのタブレットを押して下さい。(リハース・モードのタブレットは、そのままにしておいて下さい。)
- ワンフィンガーコードを弾いて下さい。(あなたの弾いたワンフィンガーコードの根音にランプがついて自動的に弾いてくれます。)
- いろいろなワンフィンガーコードを試してみてください。(コードが変わる度にペダル音がかわることに注目して下さい。)
- パフォーマンス・モードを使って下さい。
- いろいろなワンフィンガーコードを弾きつづけて下さい。ブライト・フットのランプを見て、その通りのペダルを自分で弾いて下さい。
- あなたの考えたコードを弾いて、同じように試してみてください。ワンフィンガーコードのタブレットが「オフ」になっているのを確かめて下さい。

BASS SWING

ベース・スイング

ベース・スイングは、下鍵盤で弾かれたワンフィンガー・コードやフル・コードの根音と第五音をペダルで自動的に交互に弾いてくれます。根音はコード名と同じで、第五音はそのコードの構成倍音で、これはどんなポジションや転回で弾かれたコードにもはたらきます。

- ベース・スイングは、オート・コードやオート・バリ・リズムと結びついてはたらきます。
- ブライツ・フットは、ベース・スイングをランプで示し、演奏したり(リハース・モード)、演奏は自分でできるように、2つのペダル音を交互にランプだけで知らせたりします(パフォーマンス・モード)。

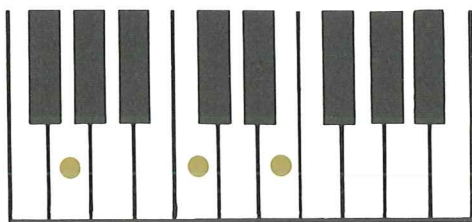
タブレットが水平の位置の時にベース・スイングは「オン」になっています。



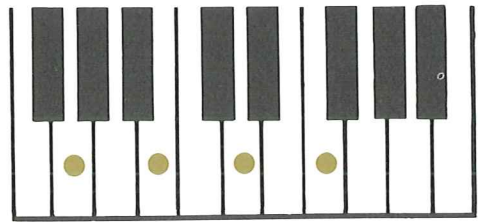
LET'S EXPERIMENT:

さあ、弾いてみましょう

- ベース・スイング/ベース・ウォークのタブレットを水平の位置にして下さい。
- オート・コードと一緒にバラードのリズムを使って下さい。
- トーン・バーのレジストレーションを、下のようセットして下さい。
上鍵盤：00 6484 543 下鍵盤：5512 000 ペダル：43
- ブライツ・フットを押して、リハース・モードを使って下さい。
- 図の様にCコードを弾いて下さい。(Cコードが、その根音と第五音をペダルで交互に出しながら、リズム伴奏を伴ってバラードのリズムで自動的に演奏されているのが聞こえるでしょう。)



C



G7

- 手を離して下さい。(ペダルパターンがひきつづき、聞こえるでしょう。)
- G7のコードを弾いて下さい。(今度は、ブライツ・フットのランプがGの音とDの音を交互に示しています。)
- ブライツ・フットのパフォーマンス・モードを使って下さい。根音と第五音を自分で弾いて楽しんで下さい。あなたの足の動きに、お友だちもおどろくことでしょう。ページを進むたびに、だんだんプロの演奏に近づきます。

BASS WALK

(ベース・ウォーク)

ハモンドのベース・ウォークは、まるでストリングベースの演奏者が弾くように、ペダル音のパターンを変えて演奏します。これは、下鍵盤の左から8番目より27番目までのキーを使った、どんな転回のワンフィンガーコードやフル・コードでも、おどろく程のペダルパターンをつくりだします。いろいろなコードが、それに見合った様々なペダルパターンのバリエーションを作ります。また、いろいろなリズムも同じ様に、様々なペダルパターンをつくります。すでに押さえられているコードに、もう一つキーをつけ加えるとペダルパターンもかわりません。ストリングベースのソロがほしい時には、手をはなしさえすれば簡単にできます。そのペダルパターンは、新しいコードが押されるまで続きます。



手前の方を押すとベース・ウォークが「オン」の状態になります。

LET'S EXPERIMENT:

(さあ、弾いてみましょう)

- ベース・スイング/ベース・ウォークのタブレットは、ベース・ウォークの方をセットしてください。
- オート・コードと一緒にラテンのリズムを使って下さい。
- トーンバーのレジストレーションをセットして下さい。
上鍵盤：45 6877 643 下鍵盤：5536 221 ペダル：56
- Cコードを弾いて聞いて下さい。
- G7のコードに変えて聞いて下さい。
- リズムをロックに変えて聞いて下さい。
- 手を離して下さい。すばらしいストリング・ベースの演奏者が弾いているように聞こえるでしょう。
- ベース・ウォークは、何時間でもあなたを楽しませてくれることでしょう。

ADVANCED PLAYING TIPS

(高度な演奏のための秘訣)

- ベース・スイングを入れてブライト・フットを使って下さい。各々のリズムによって、伴奏のパターンを変えてセットしてあります。たとえば、ラテンとバラードの違いに気をつけて下さい。
- コードを変えるたびにベース・ウォークのペダルパターンは、パターンの最初にセットしなおされます。
- ワルツとマーチはベース・スイングに適しているので、ベース・ウォークにはプログラムされておりません。
- オート・バリを「オン」にしてワンフィンガー・コードを使うと、ベース・ウォークでは、交互になるコード・パターンはバリエーションA、B、C、Dの通りに変化しますが、ペダルパターンは変わりません。
- リズム伴奏をつけながらストリング・ベースソロを聞きたいと思った場合、ワンフィンガー・コードとベース・ウォークをセットし、下鍵盤ボイスのタブレットをもどして下さい。(従ってコード伴奏はありません。)
- ベース・ウォークを使って、最もすばらしい効果をだすためには、コードを弾いて、次のコードを弾く前にそれを離して下さい。
- F#のディミニッシュコードは、ベース・スイングの根音/第五音にはプログラムされません。
- 下鍵盤で左手を使ってストリング・ベースソロを演奏する場合は、ストリング・ベースの音はそのままにして、次のレジストレーションをセットして下さい。ブライト・フット：オフ、ベース・ウォーク：オン、ペダルサステイン：オン、下鍵盤ボイス：オフ、ペダル：ペダルトーンバー・レジストレーション又はベースギター、そうすると20音のコード範囲内であなたの好きな音を弾けば、リズムにのって演奏します。
- ベース・スイングまたはベース・ウォークを使うと、これは好きな時にストリングベース・ソロを用いたり、コードをかえた時におこるペダル音の途切れを防ぐために役立ちます。コードを離れた後でも、ペダルパターンがひき続き演奏されます。また、このおかげで自由になった左手でリズムをつくったり、レジストレーションをかえたりすることもできます。

CHORD RECOGNITION

(コード・レコグニション)

オートマティック・ベースの特長は、メジャー、マイナー、セブンス、メジャーセブンス、マイナーセブンス、メジャーシックス、マイナーシックスのコードに対して正しいペダル音をプログラムします。ただし、メジャーシックスとマイナーセブンスのコードは、次のルールに従います。

- メジャーシックス・コード——一番上または下の音を根音として弾いて下さい。
- マイナーセブンス・コード——一番下に根音が第7音がくるようにして下さい。

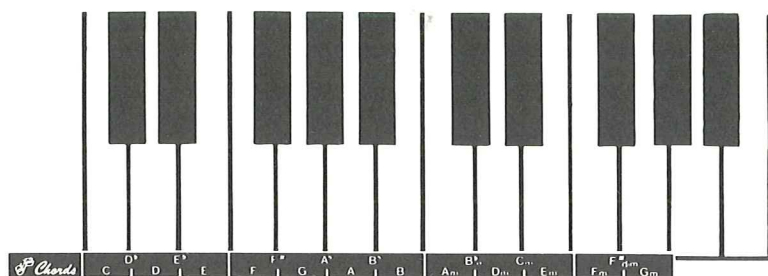
ベース・スイングを使ったり、ディミニッシュやオーギュメント・コード、或いは、重音やコードになっていない5音を弾いた場合、最底音がはじめに、そして最高音が次にペダル音として出てきます。

ベース・ウォークを使いながら、ディミニッシュ・コードやオーギュメント・コード、重音、いくつかのコードでない音を弾くと、弾いている音の一つ一つが上下にベース音として出てきます。これはブギウギのベース・パターンを作るのに特に有効です。

NOTE-A-CHORD & MEMORY

(ノート・ア・コードとメモリー)

NOTE-A-CHORD (ノート・ア・コード) — これはハモンドが開発した新機構で、音をロックし視覚的にコード学習のできるシステムです。記憶するためには、覚えたことをいちど書いてみるのが効果的だといわれています。ハモンドのノート・ア・コードは、この考え方を応用したものです。



ノート・ア・コードをオンにすると、24鍵の範囲でどのワンフィンガーコードあるいは和音を弾いた場合でも、音が出たままの状態になり覚えることが容易にできます。更に和音を弾いた鍵盤が固定されます。ですから演奏している和音が目と耳で確認できます。弾いていた和音を忘れても、和音間の関係等を理解するのに役立ちます。

ノート・ア・コードは、初心者とは思えない演奏を可能にします。練習が進んでくると下鍵盤を左手を使って、メロディー演奏ができます。ノート・ア・コードを使ってメロディーを演奏すると、下鍵盤がロックされている間に上鍵盤を使って両手で伴奏用のコードを弾いたり、フィルインしたりできます。

MEMORY (メモリー) — このタブレットを使うと、ワンフィンガーコードやこのコードに適切なペダル音をメモリーします。ですから鍵盤から手を離しても音は持続します。別のコードを弾いても同様です。メモリーは、3音でも4音でも記憶します。オートコード (自動伴奏装置) やオートバリリズムをオンにしますと、左手を離しても和音演奏ができます。また伴奏は、使っているリズムパターンによって変化します。また、リズムも記憶します。

メモリー機構には、その他にも利点があります。

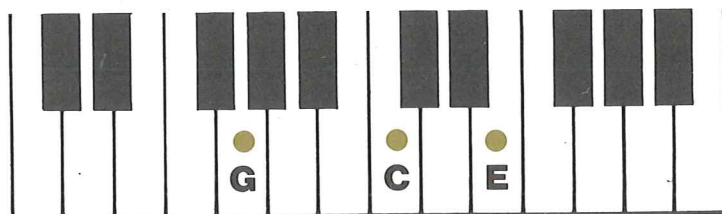
- リズムやレジストレーションのチェンジは、自由になっている左手で簡単にできます。
- 両方の手は、ブロックコード奏や、オープンハーモニーその他、色々のテクニックの使用が簡単です。

LET'S LISTEN TO CHORD PLAYED WITH MEMORY AND WITH NOTE-A-CHORD

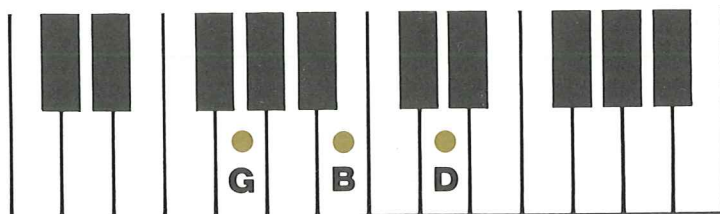
(メモリーとノート・ア・コードを使ってプレイして聞いて下さい)

まずメモリーがどのように働くか聞いてみてください。

- 下鍵盤用の8'のトーンバーとペダルの16'のトーンバーを引っぱって下さい。
- ワンフィンガーコードを入れて下さい。
- メモリーを入れて下さい。
- Cコードの鍵盤を弾いて離して下さい。そしてCコードとCのペダル音が鳴り続けていることを確認して下さい。
- 次にリズムを加えて下さい。ジャズ、オートコード、サウンドにセットして下さい。(テンポは、テンポノブで自由に調節して下さい。)
- ジャズのリズムでペダル及びコード音が出ていることを聞いて下さい。しかも両手は遊んでいますね。
- コードを変えてみてください。メモリーは素適でしょう。
- こんどは、ワンフィンガーコードをオフにしてください。
- サイレント/サウンドのタブレットは、サイレントにしてください。
- 次にCコードを次のように弾いて下さい。



- 手を離して、もう一度聞いて下さい。コードとペダルが鳴り響いていますね。
- こんどはサウンドにし、次のようにGコードを弾いて下さい。



- 手を離して聞いて下さい。今回は、Gコードがスイングのリズムで聞こえますね。今度はノート・ア・コードの働きについて調べましょう。
- リズムをサイレントにし、メモリーをオフにしてください。
- ワンフィンガーコードとノート・ア・コードをオンにしてください。
- 任意のワンフィンガーコードを弾いて、すぐ指を離して下さい。
- 今弾いていた音が聞こえていますね。そして鍵盤がロックされているのも確認して下さい。
- ワンフィンガーコードで、各コードを確かめて下さい。そしてノート・ア・コードの効果をよく調べて下さい。
- ワンフィンガーコードをオフにして、今度はもう一度Cコードを弾き次にGコードを弾いて下さい。コードを構成している鍵盤が下がったままになっていますね。そして、和音とペダル音がずっと聞こえますね。

REGISTRATIONS (レジストレーション)

- 整数のトーンバーは基音です。バラードを演奏する時は、分数のついたトーンバーよりも整数のトーンバーを多く使って下さい。
- フルオルガンのサウンドが必要な時は、トーンバーを全部8まで引き出して下さい。
- 分数のついたトーンバーは音色を変化させる時に効果的です。
- ソロを弾く鍵盤は、伴奏鍵盤よりやや強めにセットして下さい。

SOLO & INSTRUMENTAL REGISTRATIONS

(ソロや楽器音のレジストレーション)

次のようなトーンバーレジストレーションにすると、
ソロあるいは楽器音ができます。

左側のコラムの組み合わせは上鍵盤のソロ用、右側のコ
ラムは上鍵盤のソロあるいは伴奏に使用します。

Solo Sounds (Upper)

Tibia 16'	72 0020 000
Bourdon 16'	54 3100 000
Diapason 16'	64 3322 000
Solo Strings 16'	25 4421 000
Contra Viol 16'	24 3210 000
Contra Celeste 16'	23 4321 000
Vox Humana 16'	14 3110 000
Oboe Horn 16'	47 5430 000
Saxophone 16'	27 3210 000
Clarinet 16'	35 2000 000
English Horn 16'	25 3442 100
Tibia 8'	00 8240 000
Concert Flute 8'	00 6421 000
Diapason 8'	00 5642 110
Solo Strings 8'	00 2366 542

Solo or Accompaniment (Upper)

Viole Celeste 8'	00 2323 211
Vox Humana 8'	00 3400 332
Oboe Horn 8'	00 4763 000
Saxophone 8'	00 2478 500
Clarinet 8'	00 8382 700
English Horn 8'	00 3577 540
Tuba 8'	00 5680 400
Flute 4'	00 0803 030
Piccolo 4'	00 0600 000
Octave 4'	00 0545 321
Solo Strings 4'	00 0436 555
Viol 4'	00 0344 232
Octave Celeste 4'	00 0324 220
Vox Humana 4'	00 0433 042
Oboe Horn 4'	00 0606 310
Clarion 4'	00 0515 230
Tibia 2'	00 0006 001
Piccolo 2'	00 0005 111

MELODY & ACCOMPANIMENT COMBINATIONS

(メロディと伴奏)

キーボードとペダルのトーンバーの組み合わせで、変化にとんだ音が楽しめます。
ここに示してあるのは、ハモンドオルガンの一般的なレジストレーションです。

1 UPPER: 80 7806 004
LOWER: 8708 004
PEDAL: 46, Sustain
LESLIE: On, Fast
Reverb —■—

2 UPPER: 80 0800 000
LOWER: 5500 000
PEDAL: 44, Sustain
LESLIE: On, Fast
Reverb —■—

3. UPPER: 86 7767 338
LOWER: 6646 334
PEDAL: 56, Sustain
LESLIE: On, Fast
Reverb —■—

4. UPPER: 40 4555 554
LOWER: 5534 221
PEDAL: 56, Sustain
LESLIE: On, Fast
Reverb —■—

5. UPPER: 45 6877 643
LOWER: 5536 221
PEDAL: 56, Sustain
LESLIE: On, Slow
Reverb —■—

6. UPPER : 80 8868 550
LOWER: 6607 004
PEDAL: 67, Sustain
LESLIE: On, Slow
Reverb —■—

7. UPPER: 00 6484 543
LOWER: 5512 000
PEDAL: 43, Sustain
ANIMATION: Vibrato On,
Normal
SUSTAIN: On
PERCUSSION: Third
Harmonic
Reverb —■—

8. UPPER: Harpsichord Solo
LOWER: 4400 000
PEDAL: 45, Sustain
SUSTAIN: On
LESLIE: On, Slow
REPEAT: —■—
Reverb —■—

9. UPPER 80 0000 000
LOWER: 6600 000
PEDAL: 43, Sustain
LESLIE: On, Slow
PERCUSSION: Second
Harmonic
REPEAT: —■—

10. UPPER: Harpsichord Solo
(Play 8 va)
LOWER: 4402 000
PEDAL: 43, Sustain
SUSTAIN: On
REPEAT: —■—
Reverb —■—

11. UPPER: 00 8320 000
LOWER: 3300 000
PEDAL: 43, Sustain
LESLIE: On, Slow
SUSTAIN: On
Reverb —■—

12. UPPER: Harpsichord Solo
LOWER: 3003 000
PEDAL: 45, Sustain
SUSTAIN: On
LESLIE: On, Slow
Reverb —■—

13. UPPER: 86 6000 000
LOWER: 5500 000
PEDAL: 45, Sustain
LESLIE: On, Slow
Reverb —■—

14. UPPER: 00 0800 000
(Play both hands upper)
SUSTAIN: On
Reverb —■—

15. UPPER: Piano Solo
LOWER: 4500 000
PEDAL: 44, Sustain
SUSTAIN: On
Reverb —■—

16. UPPER: 00 6888 654
LOWER: 5505 000
PEDAL: 45, Sustain
LESLIE: On, Slow
Reverb —■—

17. UPPER: 00 8050 000
(Play both hands upper)
PEDAL: 44, Sustain
LESLIE: On, Slow
Reverb —■—

18. UPPER: 00 8382 700
LOWER: 5522 000
PEDAL: 44, Sustain
Reverb —■—

19. UPPER: 00 4763 000
LOWER: 4400 000
PEDAL: 34, Sustain
ANIMATION: Vibrato On,
Small
Reverb —■—

20. UPPER: 00 2366 542
LOWER: 4433 000
PEDAL: 43, Sustain
ANIMATION: Vibrato On,
Small
Reverb —■—

SPECIAL EFFECTS & OTHER COMBINATIONS

(特殊効果とコンビネーション)

ハモンドオルガンで多くの特殊効果がだせます。ここにあげる参考レジストレーションは特殊効果の一部を示しています。

ハモンドオルガンに慣れてきた時、トーンバーや他のコントロールを使ってこれらの効果を試してみてください。

VIBRAHARP

UPPER: 80 0600 000
LOWER: 4422 001
PEDAL: 43, Sustain
ANIMATION: Vibrato On,
Normal
SUSTAIN: On
PERCUSSION: Third
Harmonic
Reverb —■—

BASS GUITAR

UPPER: 88 8000 000
LOWER: 8845 014
PEDAL: 44, Sustain
PERCUSSION: Second,
Third Harmonic
Reverb —■—

SWISS BELLS

UPPER: 00 0356 864
(Play both hands upper)
SUSTAIN: On
PERCUSSION: Second,
Third Harmonic
REPEAT: On
Reverb —■—

HAWAIIAN GUITAR

UPPER: 00 6484 543
LOWER: 4403 000
PEDAL: 43, Sustain
SUSTAIN: On
ANIMATION: Vibrato On,
Normal
PERCUSSION: Third
Harmonic
Reverb —■—

CLASSIC PIPE ORGAN

UPPER: 00 8526 003
LOWER: 4505 000
PEDAL: 54
LESLIE: On, Slow
Reverb —■—

CATHEDRAL PIPE ORGAN

UPPER: 40 6606 004
LOWER: 5505 000
PEDAL: 54
LESLIE: On, Slow
SUSTAIN: On.
Reverb —■—

JAZZ ORGAN I

UPPER: 88 8000 008
LOWER: 6643 223
PEDAL: 45, Sustain
LESLIE: On, Slow
PERCUSSION: Second
Harmonic
Reverb —■—

JAZZ ORGAN II

UPPER: 84 0005 060
LOWER: 6600 000
PEDAL: 28, Sustain
LESLIE: On, Slow
PERCUSSION: Third
Harmonic
Reverb —■—

WESTERN GUITAR

UPPER: 00 7776 543
LOWER: 6605 000
PEDAL: 43, Sustain
LESLIE: On, Slow
SUSTAIN: On
PERCUSSION: Second,
Third Harmonic
Reverb —■—

CELESTA

UPPER: 00 0800 000
 LOWER: 5500 000
 PEDAL: 34, Sustain
 SUSTAIN: On
 PERCUSSION: Second
 Harmonic
 Reverb —■—

CHIMES

UPPER: 00 8320 000
 (Play both hands upper)
 R.H. { C | E | D | G
 { G | B | A | D
 { C | E | D | G
 L.H. E | G | F | B
 LESLIE: On, Slow
 SUSTAIN: On
 Reverb —■—

MUSIC BOX

UPPER: 00 0800 000
 (Play both hands upper)
 SUSTAIN: On
 Reverb —■—

THEATER ORGAN I

UPPER: 80 3700 000
 LOWER: 5503 002
 PEDAL: 55, Sustain
 LESLIE: On, Fast
 Reverb —■—

THEATER ORGAN II

UPPER: 80 0800 000
 (Play both hands upper
 in open harmony)
 PEDAL: 54, Sustain
 LESLIE: On, Fast
 Reverb —■—

THEATER ORGAN III

UPPER: 80 8644 206
 (Play both hands upper
 in block chords)
 PEDAL: 56, Sustain
 LESLIE: On, Fast
 Reverb —■—

PICCOLO SOLO

UPPER: 00 0008 000
 LOWER: 3300 000
 PEDAL: 23, Sustain
 Reverb —■—

ORCHESTRAL BELLS

UPPER: 00 8008 000
 LOWER: 4400 000
 PEDAL: 32, Sustain
 SUSTAIN: On
 PERCUSSION: Third
 Harmonic
 Reverb —■—

CHURCH ORGAN I

UPPER: 88 8844 004
 LOWER: 8807 005
 PEDAL: 76
 LESLIE: On, Slow
 PERCUSSION: Second
 Harmonic
 Reverb —■—

CHURCH ORGAN II

UPPER: 60 7655 224
 LOWER: 6601 000
 PEDAL: 54
 ANIMATION: Vibrato On,
 Small
 Reverb —■—

HONKY TONK PIANO

UPPER: Harpsichord
 Solo, Piano Solo
 LOWER: 5500 000
 PEDAL: 35, Sustain
 SUSTAIN: On
 Reverb —■—

WHAT IS HAMMOND?

(ハモンドオルガンについて)

ローレンス・ハモンド (LAURENS HAMMOND) が電気オルガンを発明すると同時に、会社を設立。1934年1月、彼は試作オルガンをワシントンの米国特許庁に提出、この特許は、同年4月24日驚くような早さで、認可され、その直後、自動車王ヘンリー・フォード氏から第1号機から第6号機を受注しました。

このオルガンは、1935年4月15日ラジオ・シティにあるRCAビルで開催された、第1回工業博覧会(但し1度しか開催されていない)に於て公開されました。セント・パトリック大聖堂のオルガニスト、ピエトロ・A・ヨンと、その後シカゴ交響楽団の指揮者になったフリッツ・ライナーが交互にハモンドを演奏しました。

ジョージ・ガーシュインも、この新しい楽器を演奏し非常に感動してすぐにオルガンを発注する程でした。このデビューに於ける評判は、絶大なものでした。

その後ハモンドは、完全にこの業界に於けるリーダーシップを確保しました。ハモンドの成功を継続させた鍵は技術の進歩と革新でした。さらに1972年ハモンドは業界で最初のLSI(大型集積回路)を音源として導入しました。これは1934年にローレンス・ハモンドが行なった大革命に匹敵するものといえます。

このようなことは、ハモンドのオーナーにとってどんな意味があるのでしょうか。さらに増した信頼性と素晴らしい職人気質が業界の先駆者であるハモンドを常にトップたらしめたのです。

以下ハモンド社の沿革をお読み頂ければ、ハモンドの目指している独創的な思想がおくみ取り頂けると思います。

HAMMOND (ハモンド社の沿革) ACCOMPLISHMENTS

- 1934 最初のトーンバー＝トーンホイール式ハモンドオルガン開発：A型
- 1936 第二番目の機種開発：B型
- 1936 ポーター・ヒープス(PORTER HEAPS)によって、最初の教育分野研究
- 1937 FTC (FEDERAL TRADE COMMISSION)は、ハモンドという楽器はオルガンとは呼べないし又、音の調節が“無限”には作れないというクレームを出した。シカゴ大学のチャペルで公平なパネル・テストを行った結果、1年後にFTCはハモンドはオルガンと呼びうる楽器であることを認めた。但し、無限に音が作れるという言い方はやめて、音の作れる範囲は、2億5千3百万とせよという結果をだした。
- 1937 最初の消費者向け業界誌出版：ハモンド・タイムズ(HAMMOND TIMES)。
- 1938 最初の自動演奏オルガン開発
- 1939 最初の純電子式オルガン開発。ノバコード(NOVA CHORD)は、今日のすべての電子オルガン市場の先駆的なものである。事実ボールドウィン(BALDWIN)とアレン(ALLEN)はハモンドノバコードの特許を使用して、会社を設立した。
- 1940 最初のシンセサイザー開発。ソロボックス(SOLO BOX)は、オルガンやオーケストラサウンドを出すピアノを発展させたものである。これは、最初のシンセサイザーである。単音楽器で、1度に1音しか出せない。スピーカーは内蔵方式である。
- 1941 軍需用モデルを作る唯一の業者になる。
- 1946 ビブラートを、家庭用及び教会用のオルガンに採用、それ以前はトレモロのみであった。
- 1949 家庭用にスピーカー内蔵式のオルガン初登場。シンデレラと呼ばれるM型は、発売後6年をまたないで今までの総販売台数を上まわる。6年経過後でもスピネット型の顧客は販売店で納期が未定なのに、50%を内金として前払いするほどであった。
- 1949 RTモデル登場、このコンサート・モデルは、ソロボックスやノバコードの音色合成システムを使って唯一のペダルソロシステムを採用した。
- 1950 最初のコード・オルガン登場、これは単純で、演奏容易、しかも格好の価格であった。このコード・オルガンは今日の業界に於ける標準

であり、まったく新しい市場理論を示唆した。

即ち用途を問わないこと、簡単に弾けること、楽しいこと等である。

1950 完全なコード・オルガンの楽譜集をこのモデルのために独占的に作成した。

1955 B-3, C-3, RT-3, M-3型に、はじめてパーカッションを導入した。

B-3は、オルガン業界の歴史で今でも最大の販売数をほこるコンソール・モデルである。

1959 乾式のリバーク・ユニットの導入、このユニットは今もステレオの部品或は自動車用のテープとカラジオ・システムに使用されている。

1960 最初のスピーカー内蔵式のコンソールA-100と、2台のスピネットL-100とM-100(リバーク内蔵)開発

1963 最初のハモンド電子オルガン(スピネット)開発：モデル3000(エベレット)

1965 最初の徹底的に新しいデザインのオルガンX-66開発。

またこの仕様は、業界で最初のコンポジット(タブレットとトーンバー共有)の音源を採用。

1967 初めて、3機種(L, T, H)にレスリー・スピーカー組込む。

1968 ハモンドが初めて、アクセサリとプログラム式リズムを組込む。

1970 業界で初めて、オート・コード楽器を開発、パイパー(PIPER)オート・コードは自動リズム、自動伴奏のできるペダルボードのない一段鍵盤のオルガンである。又、初めて、パイパー用の楽譜にユニークなカラー・コード・ナンバーシステムを採用する。

1972 初めて、L.S.I.使用のタブレット式オルガン開発：フェニックス(PHOENIX)

1972 初めてのL.S.I.使用トーンバー式コンソールモデル開発：コンコルド(CONCORDE)

1973 音楽関係及びその他の大きな量販市場双方に販売可能な安価なオルガン開発：サウンダー(SOUNDER)

1974 連続的に可変する自動リズムユニット(4つのパターンをもつ)オート・バリ64開発。16のリズムパターンは少なくとも64のパターンを連続的に変化させる。また変化のさせ方もコントロールできる。最初の本当の意味でのコンポジットスピネット開

発：オーロラ(上、下鍵盤にトーンバー及び電子式音色双方を持ったオルガン)

1975 最初の重音可能なシンセサイザー及び20のワン・フィンガーオートコード内蔵式の9900型ドルフィン開発。

1975 ドルフィン9900型のポリフォニック・シンセサイザーに使用する、20通りのインスタントレジストレーション・テンプレート開発。

1976 業界で初めて、指に触れるだけで好みのテンポが得られるタッチテンポを、新型コンソールタイプ2300型に導入。

1976 業界で初めてのノート・ア・コードを9700M、9800Mのスピネットオルガンに導入。ノート・ア・コードは、ワンフィンガーコードやフルコードをそのままの状態にロックするシステム。これによって視覚的な記憶を通して、左手コードを学習することが可能。

1977 業界で最初のブライト・フットを新しいスピネットモデル125に導入。ブライト・フットの電子頭脳によって、下鍵盤のワンフィンガーコードやフルコードを分析。

これによって、適当なペダルをランプで指示。

1977 業界で最初のベース・ウォークを125型に導入。演奏者がワンフィンガーコードやフルコードを弾くと、ストリング・ベースの演奏者がその演奏を変えていくように、ベース・ウォークがペダルパターンを変化させる。

1978 ハモンドB-3000発表。オルガン業界の歴史に於て最もポピュラーなコンソール・オルガンの復活。新機構として、レスリー・コントロール、リバーク・コントロール、ストリング系音色、エレキピアノ、グランドピアノ、可変型サステイン、トランスポザー、ベースサステイン内蔵。さらにB-3の特長であったキー・クリックをも装備。

1979 ハモンド・オーロラ・クラシック発表。マルチプレクス音色合成技術は、新しいタイプのキャビネットに見事に融合。フィルハーモニック・ストリングス、メロディー・メーカー、ファッシーネーティング・フィンガーズ、ピストン・プリセット、独自のイージー・プレイ機構、キー・クリックそして、どの世代をも満足させるハモンド・サウンド装備。

ADDITIONAL FEATURES & SPECIFICATIONS

(その他の特長)

HEADPHONE JACK

(ヘッドホンジャック、その他)

- ヘッドホン・ジャック：ヘッドホン・プラグを差し込むと、オルガン本体のスピーカーの音が消えます

POWER OUTPUT

(出力)

メイン：35W RMS、レスリー25W RMS

SPEAKERS

(スピーカー)

30cm広域スピーカー1本、15cmスピーカー1本、20cmレスリー用スピーカー1本

WEIGHT

(重量)

99kg (イスを含む)

DIMENSIONS

(寸法)

1,102(W)、628(D)、939(H) mm

(譜面立を起してセットした場合1,121mm)

HOW TO CARE FOR YOUR HAMMOND

(オルガンの保存、手入れなど)

POWER

(電源)

オルガンのネーム・プレートに表示されている電圧、周波数の電源に接続してください。

TUNING

(調律)

各音の音程が狂う心配は構造上全くありません。

PLASTIC KEYS TABS & VINYL COVERED SURFACES

(プラスチックの鍵盤、タブレット、ビニール仕上げ表面)

やわらかい布かセーム皮をわずかに湿らせ、軽く拭ってください。乾いた布は使わないでください。乾いた布でこすりますと静電気を生じ、空気中のほこりを吸いよせてしまいます。薬品も使わないでください。水だけで充分です。

PEDALS

(ペダル鍵盤)

プラスチックの鍵盤やタブレットと同じに扱ってください。

FINISH

(外装)

わずかに湿らせたやわらかい布かセーム皮でほこりを拭きます。必要ならば中性洗剤をぬるま湯に溶かし、やわらかい布につけて拭いて下さい。そのあと、洗剤を完全に拭い取り、十分に乾かします。一カ所だけ、あるいはカドのところをむやみにこすると、かえっていためることがあります。品質のよい液状の家具ワックスをお使いください。シリコン入りのスプレー式ワックスは使用しないでください。

SHIPPING

(輸送)

部屋の模様替えにともなう、ちょっとした移動は別として必ず Hammond オルガン取扱店に依頼し、専門家にしっかりと梱包してもらってください。楽器を扱い慣れていない一般の運送屋さんにかせて、あなたの大切な楽器をいためてしまわないように気をつけましょう。

WARRANTY

(サービスと保証について)

1. この商品には保証書を別途添付しております。保証書は販売店で記名の上お渡し致しますので、所定の記入及び記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
2. 保証期間はご購入日より1年間です。保証書の記載内容により販売店が修理致します。その他詳細は保証書をご覧ください。
3. 保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

故障かな? そう思われた時、ちょっと調べて見て下さい。

● ハム音が大きいとき

コンセントに差込んであるプラグの左右方向を差しかえて、ハム音の小さい方でお使い下さい。

● 電源を入れた時、ボンという音と風を切る音がきこえる……

これは、内蔵されているトレモロが音を拡散するのに常に回転しています。このためにおこるものです。オルガンの音を出している時は分かりませんが、音を出していない時はこのトレモロの音がきこえます。これも故障ではありません。

● 部屋が共鳴する場合

オルガンの音を大きくした時、部屋が共鳴する場合はオルガンの設置場所をかえてみて下さい。

次の現象も故障ではありません

- オートコードとリズムのサイレント / サウンドのスイッチを共に ON にすると、ペダルは鳴りません。
- 上鍵盤や下鍵盤の低音とペダルキーとを同時に弾くと、ごくまれに音が小さくなることがあります。
- オートコードにして、サイレント / サウンドのスイッチをサウンドにしたままでセレクトスイッチを入れないと、下鍵盤は鳴りません。
- ワンフィンガーコードのタブレットを ON にしたままで普通の演奏をすると、音がにごります。